

賞 次席

課題 (テーマ) いのちと向き合う

「いのちの尊さ」 東明館高等学校 1年 桑田沙羅

いのちとはなにか。そう聞かれたときに、何と答えるでしょうか。人間にとって大切なもの、なくてはならないもの。そのように答えるでしょうか。私は、それぞれが与えられた期間。そう答えていると思います。死とはなにか。そう聞かれたときは、何と答えますか。怖いものですか。この世から居なくなることと答えますか。私は、命がなくなり存在していない状態になる。そう答えるでしょう。では、生きるとはなにか。そう聞かれたら、何と答えるでしょう。希望があるから生きる。夢があるから生きる。そのように答えますか。私は、きっとこの質問をされたとき、すぐには答えることができないと思います。とても難しい質問だと思います。人間にとって生きるということは、特に意味がないのでしょうか。

今日もどこかでだれかが死にました。そしてだれかが生まれました。命がなくなり、命が誕生しました。きっと、このようなことを考えながら生きている人は少ないでしょう。日本人は“いのち”について考えるのでしょうか。世界中の人は考えるのでしょうか。

現在の世界の人口は、74億3395万8113人です。世界の人口は、1分間に137人、1日で20万人、1年で7千万人増えています。世界中で、1年に6千万人が亡くなり、1億3千万人が産まれます。世界には、大きな問題がいまだに多く残っています。貧富の拡大や、温暖化、環境問題、発展途上国での水や食料、病院や学校の不足などたくさん問題があります。現在の貧困者の人口は約7億200万人で世界人口の約9.6%です。(貧困の定義は、教育・仕事・食料・保健医療・飲料水・住居・エネルギーなど最も基本的なサービスを手に入れることができない状態のこととする)初めて10%台をきっています但至少はないのが今の現状なのです。私たちは、欲しいものは手に入り、十分な食事を取れ、教育だって受け、何の不自由もない生活ができています。一方で、生きることが精いっぱいの人々もいるのです。私と同じ位の子どもたち、もしくは私より幼い子どもたちがたくさんいるのです。その子たちは、自分で漁に出たり、畑を耕し収穫を売ったり、ゴミを集めて売ったり、日雇いの漁の仕事をしたり、メイドをしたり、工場でミシンの仕事をしたり、家具工場で働いたり、物乞いをしたり、ゴミ山で売れるものを探したりと生きるためにさまざまなことをしているのです。また、戦争や内戦、紛争の中このようなことができない子どもたちもいるのです。日本は、日本国憲法第9条の戦争放棄のために太平洋戦争を最後に戦争は無くなりました。しかし、私たちの知らない場所では、まだ戦争がおこっているのです。フィリピン戦争であったり、ミャンマー紛争であったり、カシミール戦争であったり、ワジリスタン紛争であったりイエメン内戦であったりと他にもまだ現在も戦闘が続いているのです。大人のせいで、何もしていない子どもたちの命が失われていきます。何もしていない人たちが殺されていきます。このような紛争のせいにより、教育を受けられない子どもたちがでてくるのです。現在、教育を受けることができ

ない子どもたちは、5900万人いて、その半数以上がアフリカのサハラ砂漠より南の地域の子どもたちです。受けることのできない原因としては、先ほど述べた紛争をはじめ、学校が近くなかったり、あったとしても先生がいなかったり、家計が苦しいがために子どもに教育を受けるより労働を優先させ、家事や水汲みに行ったり、女性だから受けさせてもらわなかったりと地域や大人のせいで子どもたちの自由が奪われていっているのです。また、人身取引も行われているのです。人身取引は、強制労働や強制結婚、臓器摘出などさまざまな方法の搾取による非人道行為で、被害者を精神的にも肉体的にも深刻なダメージを与えています。世界では、2100万人が人身取引の犠牲となっているのです。そして、3割が子どもたちなのです。いま現在の世界のことを把握している人は、どのくらいいるのでしょうか。きっと少ないでしょう。私たちがやらなければならないことは、このようなことにあっている人を助けることです。貧困の中暮らす子どもたち、教育を受けることができない子どもたちを助けることがしなければならないことだと思います。助けるために何をしなければならぬかと考えたとき、本当は現地に行って本人たちの口から願望を聞き、それを叶えてあげることが1番だとは思いますが、そんなに簡単に現地に行くことはできません。それでは、今の私たちにできることは何だろうと考えたときに、1番に思い浮かぶのは募金活動でした。まだ、東日本大震災や熊本震災のときの復興も完全におわっていない状態で他の国なんか募金するもんかと思う人がいるかもしれませんが、私たち日本人は、震災時にたくさんの外国人から支援をいただいたのです。だから、次は私たちが恩返しをする番だと思います。貧困の子どもたちは1日1.25米ドル、日本円で約130円で生活しています。それに比べて、私たちは1日何円で生活しているでしょう。朝食、昼食、夕食の3食だけで1000円は超えるのではないのでしょうか。発展途上国の子どもたちを先進国である日本人が助けなければなりません。3000円の募金が脱水症から子どもたちを回復させるORS（経口補水塩）375袋に変わります。5000円の募金が汚れた水を安全な飲み水にする浄水剤429錠（21475リットル分）に変わります。15000円の募金がポンプ付き井戸の器材1基分に変わります。そして、345円の募金がいんぴつとノート10冊分に変わり、15904円の募金で学校に必要な道具をそろえることができます。少ないお金でも子どもたちを助けることができるのです。

いのちは大切なものです。なくてはならないものです。私は、いのちというものは、それぞれが与えられた期間だと考えていましたがその考えは、まちがっていたのかもしれませんが。いのちというモノは、人間にだって、動物にだってあるモノです。そして、それは誰にとっても1番大切なモノです。しかし、おろかな大人のせいで尊いいのちが簡単に失われていきます。地域のせいで貧困におちいってしまい、いのちが失われていきます。それは、おかしなことです。私は、世界中みんな平等だと思っています。しかし、現状では平等になっていないのです。私は、今回このようなテーマで書くにあたりさまざまなことを知ることができました。そして、将来やりたいことが見つかった気がします。1度、現地へ行ってみたいと思いました。それはいつになるかわかりません。ですが、私はいのちというモノをみな平等にするためにも、自ら行動したいと思いました。今は、自分ができることで助けてあげたいと思いました。いのちと向き合うことは本当に大切なことです。